



問 水道事業の現状と今後の対策について

答 広域連携の早期実現ができるよう県関係部局と連携し進めたい

町の水道事業における計画給水人口1万4,200人に対し、現在の町の人口は約8,500人と、5,700人も少ない。今後の運営に大きく影響するのでは。

問 給水人口、給水量の現状と予測は。

上下水道課長 給水人口は、平成6年の1万367人のピーク時に比べ、平成28年には8,612人と、約16.9%減少し、現在の給水日量は約5,500m³です。予測では、人口は減少していくものと推計していますが、圏央道IC周辺開発や新たな開発の可能性も期待されており、水需要は徐々に伸びると予測してい

ます。

問 水道施設の老朽化の現状と対策は。

上下水道課長 水道管の法定耐用年数は40年であり、古いものは35年が経過しています。更新設備の優先順位を検討しながら、水道水の安全と安定供給を図っていきます。

問 コスト面を考えると、埼玉県から受水した方が安い。埼玉県水と利根川取水量の割合は。

上下水道課長 総給水量のおよそ半分にあたる日量2,000m³程は埼玉県水を受水し、残りを利根川から取水しています。川妻浄水場で浄水処理を行い、配水

池で混合して給水しています。

問 水道事業の広域連携についての考えを伺う。

上下水道課長 施設を単独で持つより、複数の自治体や地域、県単位で保有するほうが、経営コスト面や人的にも有利であると考えられるので、県関係部局の指導・助言を受けながら進めてまいります。



問 危険生物の対策について

答 注意喚起の看板設置、万が一に備えて血清の準備を進めたい

町内において、多数の危険生物が目撃されている。昨年秋には、情報防災ステーションごかの女子トイレ内でマムシが見つかったとのことであるが。

問 町として、マムシの生息を確認しているか。

生活安全課長 利根川や江戸川河川敷周辺の草むら等で目撃情報があり、町内に生息していると認識しています。

問 マムシに噛まれてしまった場合の血清などの準備対応について伺う。

町長 血清について、現在は境町の茨城西南医療センターに保管されていますが、今後は町内の医療機関等にも公費で保管するよう準備を進めます。また、注意喚起の情報の提供をしていきます。

マムシの特徴

- ・春から秋にかけて活動
- ・河川の草むらや低木の多い傾斜地を好む
- ・体長は45～60cmと短い、胴回りは太め
- ・頭部が三角形
- ・体は灰褐色～暗褐色が多い
- ・背中に銭型の斑紋が並んでいる

噛まれてしまったら…

- ・傷口より心臓に近いほうを布などで縛る
- ・毒の回りを早くしないよう、安静にする
- ・傷口から血を絞り出すように毒を出す
- ・顕著な症状がなくても、必ず早期に病院を受診する！